



令和6年4月9日

研修だより4号

授業開きのポイント

小笠原康晃

今週から授業が始まりました。
先生方はどんなことを意識して、「授業開き」をしているのでしょうか。
学級開きとはまた違ったことが必要になってくると思います。

前嶋先生は「楽しいと思ってもらうこと」を意識しているということでした。学級開きと同じように、授業を始めるときには「楽しい」「楽しそう」という気持ちを子どもたちにもってもらおうことを、気を付けているということでした。

神谷先生は「なりたい姿を子どもたちに投げかけること」を意識しているということでした。国語であれば「作文が書けるようになりたい。」など具体的な姿をイメージさせた上で、教科書の目次を見るということでした。

ちなみに、私は「仕組みづくり」を意識して授業開きをします。ノートの使い方、ノートを見せるときのポイントなどを意識させていきます。前年度までの仕組みを確認しながら、今年度のことを取り入れていきます。

授業開きについて、学年団で話し合いましたか。
今年度の研修の隠れたテーマは「対話」です。
職員同士での対話をたくさんしていきたいと思います。
教材研究のこと、生徒指導のこと、校務分掌のことなど話題は問いません。

とにかく職員同士の対話の機会を増やしていきたいと思います。
その中で、学ぶもの、気付くもの、新しく知るものがあります。
それも研修だと、私は考えています。

小規模校ならではの良さを活かして、職員室でたくさん対話をしていきましょう。